

ている。

本書がその生涯を伝える Kingdon-Ward は副題にもあるように 1885 年生れの最後の偉大な植物採集家である。その来し方をほぼ年代順に概説したのが本書である。中国西南部、チベット、ヒマラヤ植物に K-W が刻した足跡は大きく、その標本は多くの研究者を助けてきた。むろん K-W の目的は、研究者のためにおしば標本を作ることだけにあったわけではない。他の多くの植物採集家同様に園芸に役立つ新しい野性種や野生株の種子を得ることが主たる目的といつてよい。

ただ K-W は Forrest や Cooper と一味違っていた。種子採取と標本作りに専心するだけでなく、地理や地質にも多大の関心を抱き続け、さらに K-W の探索の多くは紀行文として出版している。その紀行文は克明であり、K-W の広い視野と興味に支えられている。

本書はこうした幅広い K-W の生涯を限られたスペースの中で要領よくまとめている。著者の両親は戦前からの K-W の旧知で、著者自身子供の頃から K-W のことを聞き育ったと前書きに記されている。特別な思い入れをときに感じる。特に K-W の未亡人 Jean Rasmussen に対しては特別な配慮を感じる。本書は K-W の身内とはいわなないまでも、かなり近い立場から、他者では入手できぬ情報も折り混ぜ書かれた伝記といえる。

Caltha calustris (→ *palustris*) とか *Rhododendron cawdorensis* (→ *cawdorensense*) といった不注意なミスが散見される。(大場秀章)

□牧野植物同好会：Makino 80『植物同好会』八十年の歩み 314pp. 1992. 非売品。

牧野富太郎博士が1911年に始められた東京植物同好会は、博士の指導の下にアマチュアも専門家も含めた歴史の古い会だったが、太平洋戦争と続く敗戦による社会情勢の激変で休会となった。

1965年博士の希望もあって、高齢の博士にかわって久内清孝博士をはじめとする有志により「牧野植物同好会」として復活された。以来、川村カウ氏を世話人として、会報「Makino」の刊行をはじめ、頻りに観察会、研究会を行いながら今日に至っている。本書は東京植物同好会発足80周年を記念するものである。140頁までは、同好会の歴史を物語る写真、資料、回顧談で、牧野博士をはじめとする先達のエピソードや同好会活動の思い出が綴られている。後半は Makino に連載された伊藤洋（決め手と手がかり）、林弥栄（珍しい木）、深津正（植物和名の語源）、許田倉園（イネ科の話）、長谷川義人（植物雑記）の五氏の報文をまとめたもので、内容の豊富な読物となっている。この後半は「植物遊訪『Makino』論文集」として分冊にもなっている。入手には牧野植物同好会（〒156 東京都世田谷区 川村カウ氏方）へ問い合わせられたい。(金井弘夫)

□池上義信（監）、石沢進（編）：新潟県植物分布図集第1～10集登載植物および索引 146pp. 1990. 植物同好じねんじょ会。¥2,000.

これまで刊行された分布図所載の植物の分類順、学名順、和名順索引である。付録としてユキツバキ、ヤブツバキ、中間型の詳細な分布図と資料リストがある。これと平行して分布図集第11集（¥3,000）も刊行された。これには25種類（コケを含む）の分布図が収録されている。じねんじょ会の分布図は10巻までに1,000余種におよび、図版の出来のよさとともに植物分布図のお手本のようなものである。強力な指導者と辛抱強い会員の努力のほかに印刷出版社のよき理解があったときいであるが、分布図とともにこれを利用した種々の研究が発展することを期待する。(金井弘夫)

正誤 Errata

巻 (Vol.)	号 (No.)	頁 (page)	行 (line)	誤 (For)	正 (Read)
66	5	308	↑17L	自宅	病院
66	5	310	↓10L	すゑ	ちゑ